

## シーン4

「こんばんは勇者様。ああ、ようこそいらっしゃいました」

「今日は頭数が多いですが、あまり氣にする必要はないですよ」

「ふふふ、皆さま初めて見る顔ですか？ 見た目は初めてなのかもしませんが、知つている人たちですよ。だつて、ここにいる眷属の方々は元々シスターだった人や、村人の方しか居ませんから」

「村の人たちはみんな勇者くんに良くしてくれていたでしよう？」

「今は……ふふふ、皆さん楽しそうに性を貪つておられますねえ。乱交というやつですね。ああ、楽しそうです。心から悦んでいるのが伝わってきます」

「吠える声も、沸き上がる喘ぎ声も、すべて神様に捧げる讃美歌……皆さんがそれぞれ好きに奏でている素晴らしい風景です」

「キミも仲間に加わりたいですか？ ふふふ、答えはその発情しきつたメス顔を見ればわかりますね」

「もう、あなた以外の人間は居ませんから。ええ、皆さん神様の眷属です」

「キミは勇者としての素質が邪魔して時間がかかってしまいましたが、今日でようやくきちんと最後まで祝福してあげれます。前の神の不要な素質なんて取り扱つて、新しい神様のとつても素敵な祝福で本当の勇者として、にんげん達を楽園に導く眷属として生まれ変わらせてあげます」

「もう私、嬉しくて……ふふふ」

「キミはただ、おちんちんで皆さまに祝福を与えるオスでも、気持ちいいを好きなだけ貪れるメスでも、

どちらでも

「ずっとおちんぽ様に気持よくしてもらえる素敵な毎日がおくれるようになりますよ。さあこちらの祭壇へ……はい、こちらで皆さんにあいさつをしましようか」

「勇者くんのために、集まってくれた、眷属の方々ですよ」

「皆さんのおちんちん様、ギンギンでキミを祝福したくて待ちきれないみたいですね」

「んっ、はあ……本当に、キミのメス穴は素晴らしいですね。締まりはずっとキツイまま。それなのに、ふたなりチンポをこんなにもすんなり飲み込んでしまうんですから……んあっ♡……ふふ♡」

「ナルを貫かれて、悦んで声をあげちゃう勇者くん。本当に可愛らしいです♡」

「こんなにも、ズボズボしても……んふう、ただただ気持ちいいだけになってしまっていますね♡」

「もうお顔がトロトロですよお♡ ふふふふつ♡」

「おちんちんで貫かれるのは、気持ちいいですかねえ……んっ。私も、眷属のいろいろなチンポを味わさせていただきました。カリ首がガッチリしていて、膣壁をゴリゴリとえぐり続けるチンポ。女性の手首くらいの太さのチンポは、膣肉を内側から拡げていく感覚が心地よかったです。そして、鉄のように硬く、長いおちんぽさん……子宮をつぶされながら、感じる快感は素敵でしたわあ……」

「んっ♡……ふう♡……ふふふ、少し思い出してしまって、身震いしてしまいました♡」

「今はキミの、ナルを犯しているのは、私のおちんちん様、なんんですけどねえ……んふふふ♡」

「キミだったら、どんなおちんちんを、入れてもらいたいですか？」

「先ほど、紹介した、おちんちん達は、今ここに、いらっしゃいますので……んっ♡」

「勇者くんが祝福を完全に受け入れたら、お祝いとして全員にずぼづぼしてもらいましょうね」「んんっ♡……あつ♡ うつ……はあ♡ ふう♡……すっぽり締め付けが、キツくなりましたね♡ 想像して、気持ちよくなつちやつたんですか？ もう、本当に可愛いですね、キミ」

「ゾクゾクしちゃいます。んあつ……はあ、はあ、気持ちいいですよ、キミのメス穴アナル……♡」「こうやって、んつ！ 思いつきりい、強く、突き上げてもおつ、んつ♡……キミには全部、気持ちいいんですね♡ ああ♡ これ、すきい♡ この穴♡ 本当に、気持ちいいですう……んんつ♡♡」「キミのおちんちんくんも、ビクビク、しながら、我慢汁、たれながしてますねえ♡」「あらあら♡ 自分でシコシコ、しちゃうんです？ ふふふ、じゃあ、一回出しちゃいましょう♡」「私のおちんちん様も、キミのメス穴にいっぱい、出しちゃいますから……んんつ♡」「ああ……精子、上がつて、来てるう♡……んああつ♡ はあ、はあつ♡ ふうんつ……んんあつ！」「もう、出ますつ、出ちやうつ♡……メス穴アナルに、全部、ぶちまけて、あげちゃいますねえ♡！」「んあつ♡！ セーし♡ ふたなりせーしせり上がつてえつ♡！ うひいんんんつ♡♡♡♡！！」

「ああああ♡ んつ♡……んう♡ はあ♡……はあ♡……はあ♡……ふう♡……んつ♡」「いっぱい、注いじやいましたあ……ふふふ♡」

「ああ♡ キミのおちんちんくんも♡ すつごく出せましたねえ。えらいねえ♡」「お尻犯されながら、ピュッピュしちゃうなんて、気持ちよかつたですねえ♡」

「今日は、金玉全部からつぽになるぐらい、出しちゃいましょう♡」「ほら、もっとシコシコしてください。今のキミだつたら、おちんちんくんは萎えることはないと思いま

すよ♡」

「ふふふふ、気持ちいいこと、いっぱいしましょう♡ 考えるのがめんどくさくなるくらい♡ いっぱいしましようよ♡」

「ああ、お顔トロトロですねえ♡ 体もずーっと震えっぱなしじゃないですかあ♡」

「んつ♡……はあ……メス穴がきゅうきゅう締め付けてますよお♡ 本当に淫乱なんだからあ♡」

「シコシコするの気持ちいいですねえ、感じやすい体になつた証拠ですね、よかつたですねー♡ 祝福を

続けて来た賜物です♡……んふ、私も再度、微力ながら、お手伝いしてあげます♡」「

「あはあ♡ すごいすごい♡ 精子がぴゅつぴゅつて噴き出しますよお♡」

「私のおちんちん様で深いところまで、突き上げるとお♡ んんっ♡ 出ちゃうんですねえ♡ イキっぱなし、感覚がバカになっちゃつてるかもしれませんねえ、ふふふ♡」

「おちんちん様で、じゅぼじゅぼされるの、本当に好きですよね♡ キミ……ああ、可愛い♡」

「気持ちいいことしか、考えられなくなつてきちゃつてますね♡ ふふふ♡ 素直で素敵ですよお♡」

「早く私と眷属になりましょう？ そしたらあ、迷える人間にたーくさん祝福してあげて♡ いーぱい洗礼の儀式しちゃいましょうね♡」

「きっと楽しくて、気持ちいいですよお♡」

「もっともっと、眷属を増やすんです♡ 今のキミみたいに、おちんちん様でじゅぼじゅぼされて、んふつ♡ おちんちんのことしか、考えられなくしちゃいましょうね♡」

「幸せですよね？」  
素晴らしいですよね？ こんなこと、私達だけではもつたいないです♥

「だから、たくさんの人間に、広めてあげましょう？」この、素晴らしい祝福を……んあつ♥♥♥」

「はあ♡ ああ♡ 勇者くんの中、ずっとビクビクしつばなしです♡ すごい……んつ♡」

一  
身  
精  
し  
こ  
は  
な  
し  
た  
か  
ら  
か  
な  
?  
ん  
ん  
=  
♥  
♥  
!  
き  
ゅ  
う  
き  
ゅ  
う  
ニ  
て  
終  
わ  
る  
こ  
と  
な  
く  
す  
ご  
と  
締  
め  
上  
げ  
ら

れてる感じ♥ んあつ♥…… こんなの、私もいつちやいます♥…… んあつ♥ あうつ♥ 気持ちいい、こ

「やつまよりも、すばらしさに、なつてゐるうつ…… んんんつ！」「本當にすばらしい！」

「ずっと精子、出しつぱなし♡ おちんちんくんも、バカになつちやつたねえ♡ んんつ♡ ああつ♡

もう。無理いつ  
心  
心  
心

「あっ……はあああ♥……はあああ♥……くつ、んんつ♥……ああ♥ 入りきらない、精子が……いっぱ  
い、溢れて……んんつ♥」

キミのも、すつごいい、出てるねんつはあ、はあはあ

「ふふ、ふふふふつ♡……私達の、出した精液で♡……足元に精液の池、作っちゃつてます……♡」

「こんなに、出しちやつたんですねえ……気持ちよかつたですね。よかつたですねえ……」

私も  
キミのメス穴でたくさん出しちら  
いました……  
本当に名器ですよ!!  
♥  
メス穴としては  
一級品で

す♡」

「おちんちんの付いたメス穴……女の子より可愛く喘いでくれるんですもの、本当に素敵です♡」

「さあ、いよいよですよ？……あと一回出したら、キミ人間やめちゃいますけど、どんな気分ですか？」  
「ああ、聞くだけ無駄でしたねえ♡　おちんちんで、突いて突いて、じゅぼじゅぼされまくってえ……奥の奥で熱いのぶちまけてくれば、何でもいいって顔してますもんね♡」

「勇者くんも、ふたなりチンポせーし、だあい好きになつてくれて、私もすぐ嬉しいです♡　ふふふ♡」

「気付いていますか？　周りの眷属の方が全員私達……いえ、キミに注目しているのを」「サキュバスさんもスライムさんもラミアさんも、いろいろ、勇者くんの乱れる姿を見て、興奮してしまっているみたいですね♡」

「村中の眷属さん達が十数本の勃起したチンポを全部キミに向いているの見えます？」

「みんなでキミに最後の祝福をしてあげます♡　一斉に皆さんのが祝福汁をぶつかけてあげますから、中と外にくっさい白濁液をぬりたくりですよ、おちんちん好きのメス穴勇者様にふさわしい洗礼でしょう、きっと氣に入ってくれると思います。古い神の加護なんてこれで上塗りしてあげますね♡」

「ふふふ、みなさんは準備はできているようですね。すでに射精寸前のようですね？」

「スライム娘さんのチンポはながーくて胃の中まで犯してくれそうですね。ところどころでとつてもおいしそうでしょ♡」

「とつてもぶつといのから、すつごいせーしがるもの、いろんなおちんぽで祝福してもらいましょうね。

勇者くん♡」

「心配しなくとも、私はずっとキミのアナルをふたなりチンポでずりずり、じゅぱじゅぱしてあげてますから、遠慮せずにお口や手で皆さんの祝福を手伝つてあげてください♡」

「んっ、両手におちんちん握つて嬉しそうにお尻の穴せばめちゃって、そんなにせーし欲しいんですか？それとも、ふたなりサキュバスのちんぽの匂いで興奮します？ 皆さんにお尻の穴ほじられてるところ見られて興奮しちゃう変態さんに育つてくれて、私とでも嬉しいです、よっ♡」

「ああ、いい声。メスブタみたいに鳴いてくれるなんて、もっともっと、聞きたくなります♡ セーしにまみれながら幸せそうな嬌声をみんなにも聞かせてあげてください。ね♡」

「オーク娘さんの片手で握れないほどふとーいおちんぽがんばつてシコシコしてる姿も、悪魔つ娘さんのとろけるような甘いにおいのおちんぽにむしゃぶりついてぐぽぐぽ味わってる姿も、とってもかわいいですよ勇者くん♡」

「もちろん、私のふたなりチンポをメス穴に突き付けられてビクンビクンはねてる姿も♡ 全部受け入れて気持ちよくなりましょう♡ ふふふ、きみのおちんちんもピュッピュ一生懸命射精してせーし出してますね♡」

「もっと出しましよう♡ いっぱいせーし出されて、出して、ぐちゃぐちゃになつて溶けちゃいましょう♡

「口の中も鼻の奥もケツ穴も、体中、皆さんのおちんぽで祝福されて気持ちいでしよう？」

「祝福されて神様の眷属になつた皆さんのようにおちんちんのことしか考えられないようになつて、ずつとずーっと幸せに暮らしましよう♡」

「はい、これで全員から祝福してもらいましたね。えらいえらい。あら、まだ足らなそうな顔してますね。いいんですよ、神様は全部許しちゃいます♡」

「それじゃあ、最後に私がキミのアナルの奥にいっぱいせーし出して祝福してあげますね♡」  
「それで、勇者くんの洗礼はおしまい、立派な神様の眷属になれるはずですから。いいですか？　もう、おねだり上手になっちゃって……♡」

「それっ、すっかりキミのアナルは私のふたなりチンポ専用になっちゃいましたね。んつ、私もキミのアナルをちんぽでぐりぐりするの大好きですっ、んあつ！　ハア、ハア……んつ、んんん、ちゅぱつ、んぱつ、ふうんんっ！　はふつ、せーし味のキス、とろけちゃいますね♡」

「勇者くんも必死に腰を振って、んあつ！　もう心の中はすっかりふたなりチンポの虜ですね♡」

「さあ、もういいですよね♡　はあ、はあつ♡　最後の祝福で生まれ変わりましょう。今でも、こんなアナルにふたなりチンポくわえ込んで悦んでる変態さんですから、んつ！　とってもかわいく生まれ変われると思いますよ♡」

「あはは♡　ちっちゃな可愛いチンポがさらに硬くなつてビュツツビューッて射精止まらなくなつてますね。んんつ！」

「あふっ！　私もう我慢できない！　勇者くんの中にふたなりチンポつきこんで祝福精子いっぱい、

いっぱい出しちゃううのっ♡」

「んあああ！ ひうんつ！ あ、ああ、つふああんつあああ♡♡♡！…！」

「……ふあ♡……ん……はあ、はあ♡……ああ♡ 想像通りです。祝福を受け入れて人間じやなくなつた  
キミはとつてもかわいいですよ♡」

「ふふふふ、あんなに出してもらつたのにもうおねだりですか？ 新しい勇者様はとつても信仰心が高くて立派です。実は私も勇者くんの新しい身体を見てたら、すつごくおつきくなつちゃつて♡……ええ、これからもずっと私のふたなりチンポで祝福してあげますね♡」

「まずは、キミのメス穴を祝福してあげるおちんちん様にキスから、んつ♡……ふあつ♡……んあ♡ それでは……♡」